

み す あらい ぜき 三栖洗堰

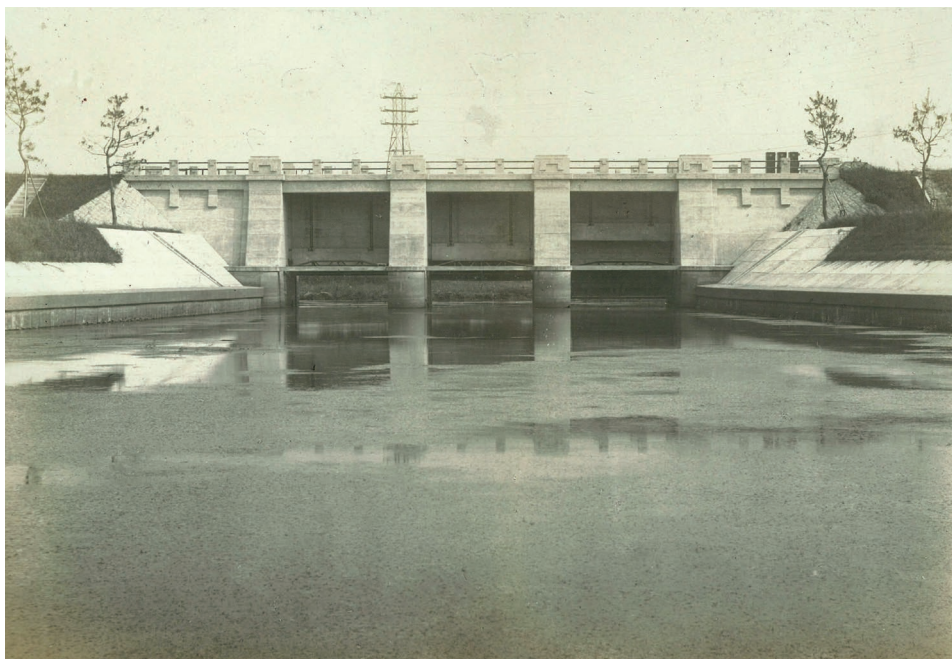
よど がわ かいしゅうぞう ほ こう じ 淀川改修増補工事

運河水面を上昇させ勾配の緩和を計る三栖洗堰

伏見新堤が築堤されたあとも、常時京都疏水は従来とおり宇治川に流入することとなり、さらに市内の悪水が加わるのでこれを排除するために三栖地先に排水門を築造する必要がありました。また、年々宇治川の水位が低下し、市内運河の水面勾配が非常に急になって舟航その他に支障を来しましたので、運河水面を上昇させ勾配の緩和を計ることが必要でした。

三栖洗堰の工事は、1924(大正13)年9月に着手され、1928(昭和3)年3月に完成しました。

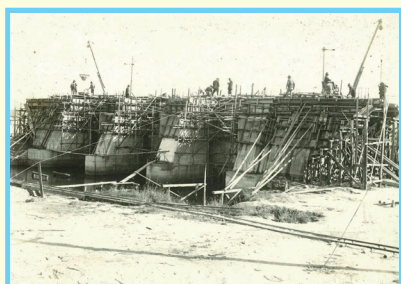
三栖洗堰は、径間5.45m、高さ3mの水通3連を持ち、洗堰の全長36.4mが一体のコンクリート構造。各水通に1枚の鉄扉を備え、鉄筋コンクリート桁の対重をつけ、電力あるいは人力により操作しました。



三栖洗堰 1928(昭和3年)3月

1924(大正13)年 着工

1928(昭和 3)年 完成



建設中の三栖洗堰



建設中の三栖洗堰



現在2018(平成30)年の三栖洗堰